



広報たはら

Tahara

田原市ホームページ <http://www.city.tahara.aichi.jp>

2014
平成26年

8.15

ぼくらは
遊びの名人だ!

目次

「しみんの広場」

2

広報サポーターだより

「バックスタート」

広報サポーターカメラリポート

北部保育園どろんこ遊び

今月の花「レイコのコレいね」

地域の話題

市民活動を応援するページ

スクールリポート

学校生活の一コマを紹介

6

たはらしティニュース

7

連載コーナー

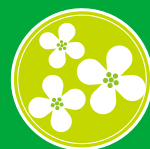
8

おしらせ

10

渥美郡三町の時代

12



しみんの広場

CITIZEN'S PLAZA

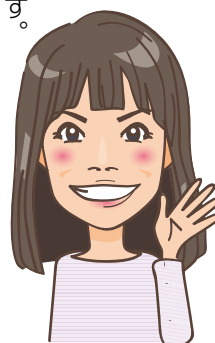
もくじ

- 広報サポーターだよりカメラリポート……2ページ
- 広報サポーターだよりレイコのコレいね……3ページ
- 地域の話(神戸校区)……4ページ
- 市民活動を応援するページ……5ページ

広報サポーターだより

『ブックススタート』

皆さん、こんにちは。広報サポーターの大久保ゆりです。
子どもたち、どんな絵本が好きでしたか？誰に読み聞かせてもらいましたか？
今回は、赤ちゃんと保護者が、絵本を通して心触れ合うひとときを持つきっかけづくりとなるブックススタートの活動についてご紹介します。



広報サポーター
大久保ゆり
(田原中部校区)

◆田原市広報サポーターの部屋

- 田原市ホームページ
<http://www.city.tahara.aichi.jp/>
- ブログアドレス
<http://kohotahara.dosugoi.net/>
- ツイッターアドレス
<http://twitter.com/#!/KohoTahara>



ブ

ックススタートは、4カ月
児健診の待ち時間を利用して行われます。番号を呼ばれて和室に入ると、図書館司書とボランティアが温かく迎えてくれます。お母さんが赤ちゃんを抱っこして座ると、ブックススタートが始まります。

「とても元気ね。子育ては楽しめてる？」とボランティアの方が声をかけると、お母さんは安心した様子です。

この日は『しろくまちゃんのほっとけーき』を読み聞かせしました。赤ちゃんは「なあに？」というような表情で本に目を向

け、途中につこり笑ったり、相手の顔や絵本をじっと見たり、中には読み終わる前に寝てしまう子も。

その後、今年度プレゼントする絵本や図書館の案内などが入ったブックスタートパックを渡しました。

◆ブックススタートとは

田原市のブックススタートは、平成16年度から始まり、今年で11年目になります。

ブックススタートとは、乳児健診などの機会に、「絵本」と「赤ちゃん絵本を楽しむ体験」をプレゼントする活動です。絵本を開く楽しい体験と一緒に、温かなメッセージを伝え、絵本を手渡します。

広報サポーター カメラリポート

田原市長杯

6月15日(日)に

日本で有名なサーフィンのメジャーポイントでもある、赤羽根ロングビーチにて、行われました。

今年で6

年目を迎える田原市長杯は、サーフィンの技術の向上や若手育成、観光収入による地域活性化を目的に開催され、今年も2000人近くの選手が日本全国からやってきました。昨年度のスペシャルクラス優勝者はその後プロサーファーになっており、プロサーファーへの登竜門になりつつあります。



●ベストライディング賞を受賞した14歳の小山みなみ選手



広報サポーター
近藤洋介



●ビーチクリーンの様子

また子どもたちへきれいな海を残すため、ビーチクリーンも行いました。

投稿 北部保育園

元気いっぱい! だろんこ遊び

北部保育園では、園児たちの創造力を伸ばし、元気な体づくりをしようと、「だろんこ遊び」をしています。

最初は汚れることをためらっている園児もいますが、しだいに大胆になっていきます。山を作る子、川をせき止めてダムを作る子、すべり台で全身だろんこになる子。それぞれが思いついた方法で楽しめます。

笑顔があふれ、みんなが元気いっぱいになる「だろんこ遊び」。これからも夏の楽しみのひとつとして続けていきたいです。



絵本を開いて、赤ちゃんに語りかけることで、だれでも赤ちゃんと同じコミュニケーションを図ることができます。絵本は赤ちゃんとその成長に関わる人が互いに心を通わせるきっかけづくりに役立っています。



●ブックスタートパック(本は1人1冊)

ブックスタートは赤ちゃんに何かを教えようという目的ではありません。親をはじめたぐさんの人が赤ちゃんと一緒に時間を過ごし、愛情に満ちた言葉を語りかけることで、赤ちゃんは、自分がとても愛されていることを知り、喜びを感じます。

ブックスタートの願い

みたい方、赤ちゃんが好きで、ブックスタートに興味をもたれた方は、お気軽に図書館にお問い合わせください。

▼図書館 ☎23局4946

ブックスタートを終えて

ブックスタート中、とても表情豊かに聞いていたとボランティアの方もおっしゃっていたしゅん君。お母さんに家での様子を伺いました。

「家では授乳後の機嫌のよいときに読んでいます。きやつと喜んで興奮したりするんですよ。この子は本が好きなかなあ。私も気持ちが落ち着いてゆっくり過ごせるんです。」と話してくれました。

今月の花

レイコのコレイね ③

農政課 ☎23局3517

●花に触れて大切な人に花を贈ろう



サンテパルクたはらは、花を贈る日の新たな創出のため中学生以下の子どもを対象とした花育教室を行っています。初回は5月4日の農業祭にあわせて、「母の日」に贈る花育教室を、第2回は6月15日に「父の日」に贈る花育教室を行いました。かわいらしいクマのデザインのアレンジフラワーを真剣に作っている姿が印象的でした。「ありがとう」の気持ちが込めて作られたアレンジフラワーは贈った人にも、受け取った人にも大切な思い出になったことでしょう。大切な人に花を贈ることで、たくさんの笑顔があふれるといいなと思います。第3回は「敬老の日」にあわせて9月14日(日)に寄せ植え教室を行います。日ごろの感謝を込めて手作りの寄せ植えを贈ってみませんか?

▶申し込み=サンテパルクたはら ☎25局1234

8月の 渥美半島 花と鉢花



スプレーギク
(花/出荷時期:通年)

花ことば
逆境の中で元気

種類も豊富で、日持ちし、県内1位の生産量、約6,700万本が出荷されています。



アンズリウム
(鉢花/通年)

花ことば
煩惱・情熱

観葉植物として人気で、県内1位の生産量、約38万鉢が出荷されています。



▲神戸校区犯罪抑止決起大会であいさつする彦坂校区会長



▲神戸小学校防犯少年団による防犯の呼びかけ

地域の話題

神戸校区

犯罪のない安全で安心できる校区をめざして

安全で安心できる神戸校区をめざして
地域全体で防犯や交通安全活動に取り組み
神戸コミュニティ協議会からお便りが届きました。



「安 心安全 備え万全！助け合
ちづくり推進計画」と「神戸校区ま
現のため、「ながら見守り隊」が発足
し、神戸小学校では、防犯少年団が
結成されるなど、地域全体で防犯や
交通安全活動に取り組んでいます。

犯罪抑止決起大会

7月12日（土）、警察・市・田原防
犯協会連合会と連携し、神戸校区犯
罪抑止決起大会を神戸小学校体育館
で行いました。

大会には、地域の人たちを中心に約
200人が参加。田原警察署から、「泥
棒は時間・光・音・地域の目を嫌う。
地域での声かけが防犯につながる」「昨
年中は、侵入盗は神戸校区がワースト
1位だったが、地域の皆さんの協力で、



今年は何件。ずっと続くようにしよう」
などと話がありました。その後、「な
がら見守り隊」による活動報告、「神
戸小学校防犯少年団」によ
る、プラカード
を使つての防犯
の呼びかけなど
がありました。

また、警察の防



▲ながら見守り隊による活動報告

犯活動専門チームによる防犯寸劇など
があり、参加者は、犯罪の被害にあ
わないための方策などを学びました。

最後に、参加者全員で『みんなで
つくろう安心の街』を合い言葉に、安
全で安心して暮らせる地域社会の実
現を神戸校区住民総ぐるみで目指す
ことを宣言します』と大会宣言をし
ました。

ながら見守り隊

散歩をし「ながら」、農作業をし「な
がら」など、小中学生の通学時に外
に出て、子どもの登下校を見守った
り、声をかけたりする地域の協力者
たちの集まりで、平成24年11月に発
足しました。今年7月現在の協力者
は431人。地域の人たちで子どもた
ちを見守る活動をしています。

神戸小 防犯少年団

神戸小学校防犯少年団は、同校の
6年生9人と5年生10人の合わせて19
人。子どものリーダーとして、安全な
行動や防犯について学び、犯罪の予防
などを呼びかけるため、今年7月7日
に田原警察署長から任命されました。

神戸コミュニティ協議会では、今後も、
地域全体で協力しあいながら、防犯や
交通安全活動に取り組んでいきます。





市民活動を応援するページ



イベント紹介

UMINARI海鳴2014アートフェスティバル

観る・聴く・歌う・描く・作る・飲む・寝る 遊ぶ!!!

自然の中でさまざまなアートに触れ、心をハダカにしませんか。

日時：9 / 27 土 12:00 ~ 21:00・28 日 12:00 ~ 19:00

場所：表浜ほうべの森公園（田原市南神戸町南中島1番地）

内容：音楽、アート作品展示、ライブペインティング、フリーペイントウォール、ツリーハウス、スライドショー、アートワークショップ、地引網、ドリンク・フードブース ほか

入場料：無料／キャンプテント1張り 2,000円

主催：UMINARI 海鳴実行委員会



▲昨年度のイベントの様子

表浜 ほうべの森キャンプ場イベントとして、今年で3回目を迎えるUMINARI海鳴アートフェスティバル。今年は昨年よりもキャンプサイトを広げ、より多くの方にキャンプをしながらイベントに参加していただけるようになりました。自然とアートを融合した野外体験型イベントです。各種ブースでのワークショップやステージイベントなど、子どもから大人まで楽しめます。

ぜひお誘い合わせの上ご来場ください。

お問い合わせ

UMINARI 海鳴実行委員会事務局 山本 ☎090-7310-9356

イベント紹介

第3回ANN講座 いのちの授業

まさしくんからの伝言 朝倉三恵さんのいのちの授業

●平成26年度市民活動向上事業補助金採択事業



▲朝倉三恵さん



▲三恵さんとまさしくん

小さな命のメッセージ～うまれてくれて、ありがとう～

2歳で小児ガンと診断されてから5年間、全力で生きたまさしくん。2010年11月に自宅にて最愛の母・三恵さんと大好きな弟2人に見送られ天国に旅立ちました。

「生き様は死に様」「死に様は生き様」「生きるとは何か？」7歳でありながらたくさんのことを教えてくれたまさしくん。彼が好きでよく書いていた言葉「愛」と「夢」。死は悲しみだけではなく、お母さんや弟たちに、愛と強さを残してくれたのです。まさしくんが伝えてくれたことを、講師である三恵お母さんから私たちに伝えてもらいたいと思います。

日時：9 / 28 日 14:00 ~ 16:00

場所：田原市福祉センター3階 大会議室

入場料：無料／定員：40名（先着順）

申し込み：9 / 23 火 祝までに電話にて

▶お問い合わせ・申し込み先 あつみNPOネットワーク事務局

☎090-9226-1977（北原） ☎0531-32-3963（森下）



田原市民活動支援センター

HP <http://www.city.tahara.aichi.jp/kyoudou/>

☎ 22局 1111（内線 812）※開設時間のみ

FAX 23局 0180 ☎ shiminkatsudo@city.tahara.aichi.jp

メールマガジン配信中です！

センターから市民活動に関する新鮮な情報を随時、お届けします。配信ご希望の方は、メール本文に「メール配信希望」とご記入の上、左記センターアドレスへメール送信ください。





スクールレポート

SCHOOL REPORT 71

学校生活の
一コマを紹介

●学校教育課 ☎ 23局 3679

田原市の姉妹都市であるケンタッキー州ジョージタウン市と、友好都市のインディアナ州ギブソン郡およびプリンスストン市から、6月4日～11日の8日間、生徒11名と引率者4名が田原市を訪れました。学校生活や家庭生活を体験しながら、交流を深めた様子をご紹介します。

中学生海外交流事業

アメリカからの生徒と交流を深めた8日間！

交流生徒たちは、市内のホスト生徒(中学生)の家に滞在し、日本の家庭生活を体験しました。昼間は中学校に通い、田原市の中学生と交流しました。英語の授業に参加したり、体育でバスケットボールを行ったりと、日本の中学校生活を体験しました。また、職場体験学習を行っていた学校では、消防署や保育園などを訪れ、体験の様子も見学しました。

6月6日には、華山会館でウェルカムパーティーが開催され、アメリカの生徒が、ホスト生徒の紹介を日本語で行ったり、歌を披露したりしました。また、田原市の中学生たちも、交流生徒のことを英語で紹介しました。お互いの特徴を上手に表現し、会場から笑いや拍手が起こりました。

6月9日には、田原市の自然・文化・産業などの理解を深めるため、市内観光を行いました。伊良湖小学校、新設された田原市給食センター、蔵王山展望台、田原消防署などを訪れました。伊良湖小学校では、子どもたちが学んだ英語をつかいながら、積極的にコミュニケーションを取ろうと頑張っていました。かるたや折り紙、ゲームなどの活動に、生徒はもちろん、引率の先生も大喜び。楽しい交流会となりました。次に訪れた田原市給食センターでは、最新の調理設備を見学した後、みんなで給食を食べました。最後に訪れた田原消防署では、消防署の施設やレスキュー訓練に興味深く見学していました。はしご車で高さ20mまで上げてもらおうと、大興奮している様子でした。

今回の8日間の交流は、アメリカから訪れた生徒たちだけでなく、ホストファミリーや田原市の生徒たちにとっても、国際感覚を豊かにする素晴らしい体験となりました。



●英語の授業に参加する生徒(福江中)



●ウェルカムパーティーで自己紹介する生徒



●伊良湖小児童との交流の様子



●お世話になったホストファミリーと一緒に記念撮影



●消防署でははしご車を体験

7月19日(土)

家族で学ぶ
水辺の安全

親子ウォーターレスキュー教室が白谷海水

浴場で開催され、親子24名が参加しました。悲しい水の事故が起きやすいこの季節。「浮いて待て」をキーワードに、参加者は服を着たまま海に入り、浮いて助けを待ち自分の命を守ることを、実際に体験しながら学びました。



▲万が一の場合に備え、「浮いて待て」を体験する参加者の皆さん

7月20日(日)

みんなで食べて
楽しく朝ごはん

早起きおにぎりキャンペーンがあつみライ

ブランドで開催され、福江校区保美地区の親子など89名が参加しました。朝食の大切さなどを知ってもらおうと行われたこのイベント。参加者は、自分の好きな具を選んでつくったおにぎりを、みんなでおいしく食べました。



▲みんなで食べるとおいしいですね。8月19日(火曜)には、高松市民館でも開催されます

7月27日(日)

参加・体験して
学ぶ「エコ」

たはらエコフェスタが田原文化会館一帯

で開催され、約1200名が来場しました。大人気の環境クイズラリーや工作教室などが行われたほか、太陽光発電や風力発電についての紹介ブースもあり、参加者は楽しみながらエコについて学んでいました。



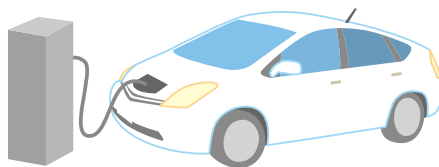
▲竹製の弓で射的を行う参加者たち。自然の素材の感触を楽しめました

広がる未来へ

たはらエコ・ガーデンシティ構想

次世代自動車普及拡大に取り組みんでいます

田原市は、市民などのクリーンエネルギー利用を積極的に支援し、環境と共生する豊かで持続する地域たはらエコ・ガーデンシティを実現するため、次世代自動車として電気自動車（EV）・プラグインハイブリッド自動車（PHV）の導入に対し、補助を行っています。EV・PHV導入の際には市の補助金をご活用ください。



●電気自動車等購入補助金

- 対象事業Ⅱ電気自動車またはプラグインハイブリッド自動車の購入
- 補助金額Ⅱ車両本体価格の5%とし、限度額10万円

●申請方法Ⅱ新車登録が完了し、支払いが完了した日から起算して30日以内に必要書類を環境政策課に提出

- その他Ⅱ詳しくは、市ホームページをご覧ください。

●電気自動車（EV）とは

電気をエネルギー源とし、モーターを動力源として走行する自動車のこと

●プラグインハイブリッド自動車（PHV）とは

コンセントから直接充電できる機能を持ったハイブリッド自動車のこと

田原市では、環境にやさしい次世代自動車の普及拡大と施設利用者の利便性向上のため、市内3カ所の施設にEV・PHV用普通充電器を整備しましたので、ご活用ください。

- 設置施設Ⅱサンテパルクたはら、道の駅田原めぐくんはうす、道の駅あかばねロコステーション

- 利用料金Ⅱ100円／時間

●たはらエコ・チャレンジ宣言登録者数
個人2600人・事業所99カ所（7月末現在）

▼環境政策課

☎ 23局 7401 FAX 23局 0180

HP <http://www.city.tahara.aichi.jp/>

環境戦隊たはらエコレンジャー 環境けいじばん 25



皆さんの家庭から出る生活排水はどのようにしてきれいにされているのかご存知ですか？今回は、浄化槽について紹介します。



家庭から出る生活排水は、下水道に接続されている場合は浄化センターで、下水道に接続されていない場合は浄化槽できれいにされています。浄化槽の中にはたくさんのお微生物がいて、トイレや台所からの汚れを食べ、分解し汚れた水を処理しています。

この微生物は案外気難し屋で、これを活発に働かせるためには、微生物が働きやすい条件を整えてやらなければなりません。浄化槽が生き物だといわれるのもこのためです。

◆微生物のためにできること

次のことを心掛けると微生物の状态が良好に保たれます。



- 使った油は、流しに流さずに、古新聞などに吸わせて可燃ごみに出す
- トイレトーパーは、適量を使う
- 洗剤は必ず適量を計って使う
- 排水は洗濯と食器洗いの時間をずらすなどして、一度に流さないようにする
- カビ取り剤を大量に使用しない

浄化槽で、汚れを取り除いてきれいになった水だけを放流し、汚れは汚泥となつて浄化槽の中に残ります。このため浄化槽は専門業者に委託し定期的な清掃を行う必要があります。浄化槽を正しく管理して、きれいな水環境を作っていきましょう。

▼環境政策課

☎ 23局 3541 FAX 23局 0180



景観ってなあに？

vol.2

▶街づくり推進課 ☎23局3523

●「景観を読む！」

前回、景観とは何かを題材としましたが、今回は、景観を読むコツについて考えましょう。景観を読むというと、なんだか難しいと思ってしまいますが、そんなに難しくありません。最初はただ「きれいだな」と思っているだけだった景観が、コツをつかむといろいろなことに気づくようになります。



今回は、その練習をしてみましょう。次の写真は、田原市博物館の前の街並みの様子を撮った写真です。

- どんなものが見えますか、じっくりまわりを眺めてみましょう。
- 自分が住んでいる地域の景観と何が違いますか。
- 写真の中に素敵なものはありますか。

城下町の雰囲気にあわせ、道路が石畳になっていますね。民俗資料館の前の塀も城下町の佇まいを表現した



▲田原市博物館前の街並み

整備になっていませんか。また、左側の家の塀も、地域の歴史や雰囲気にあわせたものになっていることを見つけることができます。今まではただの街並み写真だったものが、少し景観の目でみることによって、このようなことに気づくことができます。皆さんが住んでいる地域の景観を読んでみましょう。きっと何か気づくことがあると思います。



ガイドダンスに従って録音や再生を

●使い方

◆設置場所

声の伝言板の役割を果たします。

◆「171」とは

震度6弱以上の地震発生時など、被災地への安否確認電話が集中する場合、N-TTでは、「災害用伝言ダイヤル」サービスを開始します。このサービスは、家族や親戚などの安否を確認したい時、声の伝言板の役割を果たします。

こんにちは、しろちゃんです。地震などの災害は、いつ起きるかわからないので、学校や勤務先、自宅など家族が別々の場所に居る時に地震が発生すると、バラバラになってしまう可能性があります。電話で連絡を取ろうとしても、つながりにくい状況になってしまう場合もあります。今回は、そういった場面で役に立つ災害用伝言ダイヤル「171」について紹介します。

しろちゃん

防災知恵袋

5

災害発生時における家族の安否確認

みんなで取り組む防災・減災

行います。

※災害用伝言ダイヤルには、「被災地内の電話番号」しか登録できません。また、被災地内から利用する場合も「市外局番」からダイヤルする必要があります。

◆「災害用伝言ダイヤル」が体験できます

●毎月1日と15日

●正月三が日

●防災週間【8月30日午前9時～9月5日午後5時】

●防災とボランティア週間【1月15日午前9時～21日午後5時】

◆災害に備えて

平常時から災害に備えて、「171」の利用を含めたお互いの安否確認の方法、勤務先や学校からどのようにして自宅に戻るのか、家族が落ち合う場所をどこにするのかなどの具体的な対策を家族で話し合っておきましょう。

▼防災対策課 ☎23局3548



おしらせ				
		INFORMATION		

募集

田原市立小・中学校 常勤・非常勤講師

▼応募資格＝次の要件をいずれも満たす方①子どもが好きで学校教育に熱心に取り組める方②教員免許所持者（採用時に取得見込みの方も可）

▼受付期間＝随時（市役所勤務時間中）▼申し込み＝市販の履歴書に顔写真を張り、必要事項を記入し、教員免許を所持している方はコピーを添えて、直接または郵送にて

▼学校教育課

〒441-3492 住所不要
☎23局3679 FAX22局3811

第10回渥美半島ぐる輪 サイクリング 参加者

▼日時＝10月19日（日）
午前7時～午後4時

▼場所＝白谷海浜公園（スタート・ゴール地点）

▼コース＝
A蔵王山登頂&渥美半島一周コース約90km（中学生以上）／B渥美半島一周コース約60km（小学5年生以上）／Cファミリールコース約30km（小学生以上）

▼定員＝1800名（先着順）▼参加料＝中学生以上3000円、小学生2000円（傷害保険含む）▼申し込み＝9月1日（月）～8日（月）の期間に、ホームページ（<http://www.sportsentry.net>）にて／申し込み要項は大会事務局およびスポーツ課に設置

▼その他＝ゴール後には、地元の有志による特製豚汁やおにぎりなどの振る舞いあり／大会当日は、沿道での自転車通行数が増加し、ご迷惑をおかけしますが、ご理解をお願いします。

▼主催＝愛知県サイクリング協会



生活

▼渥美半島ぐる輪サイクリング事務局
（愛知県名古屋市中北区新沼町1-50）
☎（052）909局6201

きゆうきゆう広場を 開催します

9月9日は「救急の日」です。また、この日を含む1週間は「救急医療週間」と定められています。



これに合わせて、「きゆうきゆう広場」を開催します。この機会に応急手当を体験してみませんか。申し込みは不要です。お気軽にお越しください。

▼日時＝9月7日（日）午前11時～午後2時 ▼場所＝伊良湖トライアスロンゴール会場周辺 ▼内容＝訓練人形を使用した心肺蘇生法、AEDの体験、救命講習の受付相談、チャレンジきゆうきゆうクイズ（クイズ参加者には記念品を差し上げます）

▼消防署
☎23局4075 FAX23局2440

終戦時に引揚者の方々から お預かりした通貨・証券の返還

名古屋税関では、終戦後に外地からの引揚者の方々が、税関などに預けた通貨や証券などをお返ししていますが、引き取り手がなく、保管されたままのものが多数あります。

返還請求は、ご家族の方でも可能です。お心当たりの方は、お気軽にお問い合わせください。

▼返還している通貨・証券など＝①上陸地の税関または海運局に預けた通貨・証券など②帰国前に在外公館や日本人自治会などに預けた通貨・証券などのうち、その後日本に返還されたもの

◆通貨

旧日本銀行券、旧日本軍軍票など

◆証券

支那事変割引国庫債券、大東亜戦争割引国庫債券など

※詳しくはお問い合わせください。

▼豊橋税関支署

☎（0532）32局6566

◆お詫びと訂正

広報たはら平成26年8月1日号12頁「保育園新規入園案内」に誤りがありました。お詫びして訂正します。

【表中】正：稲場保育園

誤：稲葉保育園

愛知県防災航空隊ヘリコプター などの合同訓練

消防署と各関係機関ヘリコプターとの合同訓練を行います。当日は安全のため一時的に周辺道路の通行制限を行いますので、ご協力をお願いします。（荒天・災害出動などの場合は中止）

▼日時／場所＝【9月5日（金）】午前10時～正午ごろ／休暇村伊良湖
【9月12日（金）】午前10時～正午ごろ／赤羽根コパーク周辺

▼消防署渥美分署
☎33局0119 FAX32局2479
▼消防署赤羽根分署
☎45局4119 FAX45局4120

8月31日は「野菜の日」

「夏の元気は野菜から！旬の野菜を美味しく食べて心も体も健康に」

「831」の語呂合わせから、野菜のよさを再認識してもらおうと、昭和58年に全国青果物商業組合連合会をはじめ9団体の関係者が制定した記念日です。

夏野菜はビタミンやミネラル、食物繊維などが豊富に含まれており、暑い夏を元気に過ごすために欠かせ

ない食材です。地元で取れる新鮮でおいしい夏野菜を積極的に食べて、水分補給・クールダウンを心がけましょう。



お気軽にご利用ください 「消費生活相談室」

商品の品質やサービスに対する苦情、訪問販売などによるトラブルが増えています。そこで消費生活相談室では、9月2日（火）から専門の相談員がアドバイザーや情報提供を行います。一人で悩まずにご相談ください。

▼日時＝毎週火曜日（祝日・年末年始は除く）／午前9時～午後3時30分（正午～午後1時は除く）▼場所＝商工観光課 ▼相談料＝無料

▼申し込み＝不要（当日、電話または直接来庁）

相談専用電話

☎23局3818

※田原福祉センターおよび渥美文化会館で毎週金曜日に行っていた消費生活相談は、8月末をもって終了します。

▼商工観光課

☎23局3522 FAX22局3817

全国斉「高齢者・障害者の人権 あんしん相談」強化週間

虐待など、高齢者や障害者の人権にかかわる悩みごと、心配ごとなどの相談に応じます。相談内容の秘密は固く守られますので、ひとりで悩まず、お気軽にご相談ください。

▼日時＝9月8日（月）～14日（日）午前8時30分～午後7時（土・日曜日は午前10時～午後5時）▼相談担当者＝人権擁護委員

相談専用電話

☎（0570）0003局110
▼名古屋法務局人権擁護部
☎（052）952局8111

6月10日は「下水道の日」 下水道を正しく使おう

■下水道接続にご協力を！

下水道は、私たちの家庭などから出る生活排水をきれいにして川や海に戻し、快適な生活環境をつくるとともに、海や川を汚染から守るための施設です。下水道を**使える区域でまだ接続をしていない方は、接続にご協力ください。**

■異物を流さないで！

下水道施設へ異物が流入すると、故障の原因になり、適切な汚水処理

ができなくなります。水洗便器に、トイレットペーパー以外のものを流さないようにしましょう。

▼下水道課

☎23局3525 FAX22局3184

水道・排水設備指定工事店の 新規追加

給水工事は、田原市指定給水装置工事店へ、公共下水道などに接続する場合は、田原市排水設備指定工事店へ必ずお申し込みください。

◆新規追加

・株式会社ライフエンジニア豊橋（豊橋市八町通）

☎（0532）43局6255

▼水道課

☎23局3532 FAX22局3184

▼下水道課

☎23局3525 FAX22局3184

寄付

DONATION

次の方からご寄付をいただきました。ご厚意に感謝します。

▼6月30日、並樹会様から地域福祉のため金2万円。



渥美郡三町の時代



※今月号から隔月で連載します。

郷土史編さん室 ☎36局6503

田原・赤羽根史現代編の編集に取り組んでいます

平成15年8月20日に田原町と赤羽根町が合併して田原市が誕生しました。そして、平成17年10月1日に渥美町と合併し、渥美郡三町を行政区域とする現在の田原市になりました。

合併前の三町は、いずれも町史を編さんし、地域の歴史を書き記してきました。『渥美町史現代編』は、平成17年の合併までの渥美町時代を取り上げています。

一方で、『田原町史』と『赤羽根



▲【写真上】昭和30年の駅前商店街のネオンサイン
【写真下】昭和30年代の赤羽根町大石海岸の地曳網風景
(いずれも田原市博物館所蔵)

町史』は昭和40年頃までの記述にとどまっています。

田原市教育委員会では、この地域の歴史を検証するとともに、空白となっている町史を補完して後世に継承していくために『田原・赤羽根史現代編』の編集に取り組んでいます。

編集は、市教育委員会が委嘱する「田原・赤羽根史現代編編集委員会」が行っています。

対象期間は昭和30年（1955）の昭和の合併から平成17年（2005）の平成の合併までの約50年間で、平成28年度の刊行を目指し編集作業を

進めています。

なお、『田原・赤羽根史現代編』の編集に当たり、市民の皆さんへ情報の提供をお願いする場合がありますので、その際にはご協力をお願いします。

【安井俊則委員談】

この現代編では、昭和30年からの田原町と赤羽根町に焦点を当てています。昭和29年生まれの私にとって、まさに自分の生い立ちを振り返る取り組みになります。私の記憶に残る三河田原駅前、道路も未舗装で、牛車で持ち込まれた農産物が山

のように積まれ、オート三輪が行き交うなど活気に満ちあふれていました。今の私たちの生活とは大きく違い、電話やテレビもありませんでした。が、心豊かな時代でした。

昭和30年からのこの地域の変遷（へんせん）を振り返り、史実を後世に正しく継承していくため、編集委員会で力を合わせて取り組んでいます。皆さんが本市の魅力を再発見する一助になれば幸いです。

田原・赤羽根史現代編執筆委員

石井一希、石井志津子、伊藤博文、大和貞雄、加藤克己、小林一弘、林哲志、葉山茂生、藤井啓貴、藤井忠、藤城信幸、藤原喜郎、八木将勝、安井俊則、山本正樹、渡辺幸久

今月の「表紙」

▼どろで汚れることを気にせず、むしろ大胆に体中どろんこになって遊ぶ園児たち。水と混ざった土は、自在に形を変えて、山になったり川になったりと、園児たちの思うがままに。単純に見えるこの遊びは、園児たちの心を解放し、たくさん笑顔があふれていました。自然に触れ合うことは、本当に大切なですね。(M)

【表紙の写真】北部保育園 どろんこ遊び